手振りでパイロットを応援
（走井２丁目17番の水門付近）

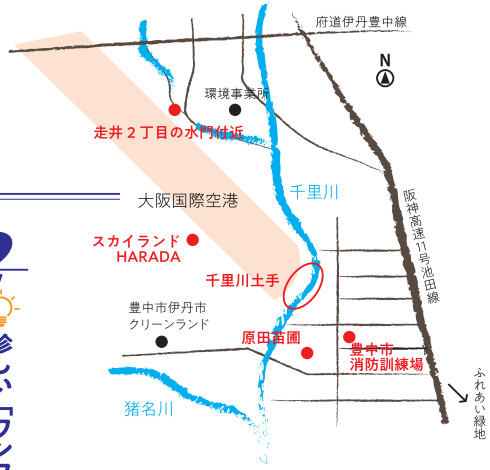
離陸するためにB滑走路に向かう飛行機を間近に見ることができる走井2丁目17番の一角では、週末になると何人かが飛行機に手を振ったり、写真を撮ったりしています。

13年前から毎週末に通って、手を振り続けている小川悟さん（桜の町）は、大阪国際空港から乗務するパイロットのだれもが知る存在です。パイロットを応援する気持ちが伝わって、平成25年（２０１３年）には、全日本空輸株式会社の運航乗務員有志一同からの感謝状を授与されました。

ここに来れば必ず会える飛行機好きの仲間と交流するのも楽しみ。エンジンの逆噴射で舞い上がる水しぶきが迫力あるという、雨の日ならではの魅力もあるそうです。

猪名川町から祖父に連れて来てもらっている三宅蓮さん（11歳）は、小学校に入る前から乗り物図鑑で飛行機の名前を覚えて、学校中のだれよりも飛行機に詳しいと一目置かれています。「迫力のあるボーイング７７７（トリプルセブン）が好き」と言う三宅さん。将来は航空整備士になる夢をふくらませています。

飛行機に向かって手を振る小川さん（右）と三宅さん（左）



豆知識

1 滑走路に書かれた数字

航空管制では、真北を３６０として時計回りに方角を３桁の数字で表します。たとえば東は０９０、北西は３１５です。滑走路の末端には向かう方角を表す数字の上2桁が書かれていて、大阪国際空港では、「32」と「14」です。

2 珍しい「ワンフォー」

大阪国際空港での離着陸は、ほとんどが北西方向に向かって行われますが、南風や東風が強いときは逆方向からの離着陸となります。滑走路を南東に向けて使うときは、滑走路の末端に書かれた方角を表す数字にちなんで「14（ワンフォー）」と呼ばれ、めったにないことです。

3 伊丹空港と呼ばれるのはなぜ？

大阪国際空港の敷地は、豊中市、伊丹市、池田市にまたがっており、第二次世界大戦の終戦後、米軍に接収された飛行場は「伊丹航空基地（Ｉｔａｍｉ Ａｉｒ Ｂａｓｅ）」と呼ばれていました。その名残でいまも「伊丹空港」が通称として使われ、空港を識別するコードは「ＩＴＭ」となっています。

発行／平成31年（2019年）3月　〒561-8501 豊中市中桜塚3丁目1番1号　豊中市 都市活力部 魅力創造課　☎ 06-6858-2863